

主な立ち寄り場所説明

出典参考資料(<https://tokitabi.blog/townwalking/soka2103/#outline22>)



「藤城家」江戸時代の商家 埼玉県草加市高砂 2 丁目内

「藤城家」は旧草加宿の中央に位置し、江戸時代の宿場町にあった商家の造りが良く伝わる建物で、国登録有形文化財です。
裏手には蔵造りの建物も見えます。
現在も使用されている建物で内部の公開はされていません。

「大川本陣跡の碑」、「清水本陣跡の碑」

「大川本陣跡の碑」は、江戸時代の宝暦年間まで置かれた本陣の跡碑。

建物などの遺構は残っていません。

「清水本陣跡の碑」は宝暦年間以降、明治時代まで置かれた本陣の跡。

昭和初期にはまだ堀の一部が残っていたとのこと。



「甚左衛門堰(じんざえもんぜき)」

治水関連の史跡で、綾瀬川と伝右川の間で用水量を調整する役割だったもの。

明治 27 年(1894 年)から昭和 58 年(1983 年)までの、約 90 年間使用されたそうです。

保存の状態も良好で県指定の文化財です。

「札幌河岸公園(ふだばかしこうえん)」

埼玉県草加市神明 2 丁目 5

市の中央部を南北に流れる綾瀬川沿いにあります。
入口の橋からして、ちょっとレトロな雰囲気です。
江戸時代の綾瀬川は草加と江戸を結ぶ重要な運河として、多くの舟が行き交っていました。当時の河岸を再現したものです。

奥に見える望楼(ぼうろう)は公園のランドマークとして建てられたもの。





「松尾芭蕉像」

札幌河岸公園のテーマになっているのが、かつて「おくのほそ道」の旅で草加宿に歩みを残している松尾芭蕉の像があります。

松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出たのは、江戸時代の元禄2年(1689年)。江戸深川から舟で千住宿へ渡り日光街道を北上。粕壁(現、春日部)へ向かう途中に草加宿が登場します。

この像は「おくのほそ道」旅立ち300年を記念して、草加市民有志によって昭和64年(1989年)に製作されました。

「矢立橋」

草加松原内にある2つの和風の太鼓橋が、街道風情を醸し出しています。



街中では歩道橋として使用されています。

札幌河岸公園寄りの橋は「矢立橋(やたてはし)」。



「草加松原」

明治時代に806本あった松は、戦後、車の排気ガスや道路舗装で著しく本数が減少。

地元関係者や市・埼玉県の整備による努力で、平成24年(2012年)には東京スカイツリーの高さになむ634本の松並木が復活しました。

「おせん公園」埼玉県草加市神明1丁目6

公園内には、せんべい形の「草加せんべい発祥の地」の石碑。

背後に控える棒状の碑は、煎餅を焼く箸の形(地元民にしかわからないかな。)

説明板による草加せんべいのルーツは

- 日光街道の草加松原の茶屋では、おせんさんの作る団子が評判だった。
- おせんさんは団子が残ると捨てていた。それを見た侍が「つぶして乾かし、焼餅として売っては？」と新規商品提案。
- おせんさんがそれを売り出したところ大評判となり、日光街道名物となった。



「草加市歴史民俗資料館」

宿場町・草加の歴史をもっと知りたければ、「草加市歴史民俗資料館」の立ち寄りもオススメ。

資料館の建物は、大正15年(1926年)に草加小学校校舎として建てられた、埼玉県初の鉄筋コンクリート造りの校舎を活用。建物自体が国登録有形文化財とのこと。